

(別記)

上川町農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、水田面積に占める主食用米面積の割合が約 40%で、転作面積に占めるそば、飼料作物の面積が多く、土地利用型作物の担い手への集積が進んでいる。しかし、農家の後継者不足や農業従事者の高齢化が進行しているため、集落の経営実態を考慮した法人経営を主体とした大規模経営体への農地集積をさらに進めるとともに、高収益作物を主体とした個別経営体の育成が課題となっている。

2 作物ごとの取組方針等

町内の約 539ha（不作付地を含む）の水田について、適地適作を基本として、産地交付金を有効に活用しながら、作物生産の維持・拡大を図ることとする。

(1) 主食用米

売れる米づくりを基本とし、栽培基準の統一化を図りながら減農薬・減化学肥料を合わせた高品質米として、特別栽培に取り組む。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

町内畜産農家との供給契約により必要量の確保と出荷コストの低減による生産性向上を図る。

イ WCS 用稲

町内畜産農家との供給契約により必要量の確保と出荷に努める。

ウ 加工用米

もち米の加工用米について、切り餅や米菓の用途について今後販売量増加の見込みから、栽培面積を拡大し、水張り面積の確保と地域の水稲面積の維持を図る。

(3) 大豆、飼料作物

大豆については、地域ブロックローテーションの中心として位置付け、適正な輪作体系の維持・確立を目指す。飼料作物については、町内畜産農家との供給契約により必要量の確保と出荷に努める。

(4) そば

地域における高齢化が進行する中、そばを水稻転作の中心作物として位置付ける。産地交付金を活用し、町の特産物としての品質を維持しつつ、作付面積の拡大を図る。

(5) 高収益作物（野菜等）

「かぼちゃ」「ミニトマト」「ピーマン」「アスパラ」「きゅうり」「メロン」「スイートコーン」を高収益作物として拡大する。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 29 年度の作付面積 (ha)	平成 30 年度の作付予定面積 (ha)	平成 32 年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	191.76	191.00	189.00
飼料用米	6.33	6.00	6.00
WCS 用稲	7.36	6.00	6.00
加工用米	47.79	48.00	48.00
大豆	23.71	20.00	18.00
飼料作物	130.97	131.00	133.00
そば	91.84	92.70	94.00
小豆	0.15	0.20	0.20
地力増進作物	6.24	6.30	6.30
高収益作物	8.69	9.30	9.90
かぼちゃ	2.22	2.55	2.65
ミニトマト	1.32	1.45	1.55
ピーマン	0.36	0.45	0.50
アスパラ	3.44	3.50	3.60
きゅうり	0.25	0.30	0.40
メロン	0.32	0.35	0.40
スイートコーン	0.63	0.70	0.80

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	目標	
				現状値	目標値
1	そば	そば振興支援	そば作付面積 単収	(29年度) 91.9ha (29年度) 73 kg/10 a	(32年度) 97.0ha (32年度) 76 kg/10 a
2	かぼちゃ・メロン・ ミニトマト・ピー マン・アスパラ・き ゅうり・スイート コーン	高収益作物支援	高収益作物面積	(29年度) 8.7ha	(32年度) 9.9ha
3	牧草・デントコーン	飼料作物支援	飼料作物作付面積 コントラ利用率 単収 牧草 単収 デントコーン	(29年度) 130ha (29年度) 70% (29年度) 3,454 kg/10 a (29年度) 2,967 kg/10 a	(32年度) 133ha (32年度) 100% (32年度) 3,500 kg/10 a (32年度) 3,000 kg/10 a
4	大豆	大豆振興支援	大豆作付面積 単収	(29年度) 23.7ha (29年度) 188 kg/10 a	(32年度) 26.0ha (32年度) 200 kg/10 a
5	そば	そば作付支援	そば作付面積	(29年度) 91.9ha	(32年度) 97.0ha

※ 必要に応じて、面積に加え、当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内としてください。

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり